



生誕  
100年

# 藤本能道

## 生命を描いた陶芸家

画像1.「梅白釉描色絵金彩花と蝶図六角小箱」1991

会期 2019年8月3日(土)～12月1日(日)

**菊池寛実記念 智美術館**

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

<http://www.musee-tomo.or.jp>

プレスレビューのご案内は7頁をご覧ください。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

このたび当館では 2019 年 8 月 3 日（土）より 12 月 1 日（日）までの会期にて、「生誕 100 年 藤本<sup>よしみち</sup>能<sup>いのち</sup>道一生命を描いた陶芸家」展を開催いたします。本展は、戦後日本の陶芸界を牽引した作家のひとりである藤本能道（1919－1992）の仕事を、菊池コレクション収蔵品に未発表の素描等の特別出品作を加え、充実した内容でご覧いただくものとなります。つきましては、展覧会の概要、見どころ等をお知らせいたしますので、ひとりでも多くのお客様にお運びいただけるよう、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

## ■展覧会概要■

展覧会タイトル：

「生誕 100 年 藤本能道一生命を描いた陶芸家」

Fujimoto Yoshimichi: The Centennial of the Birth of a Master of Overglaze Enamels on Porcelain

- 会 期 2019 年 8 月 3 日(土) ～ 12 月 1 日(日)
- 主 催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
- 協 賛 京葉ガス株式会社
- 会 場 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル）  
<http://www.musee-tomo.or.jp>
- 観覧料 一般 1,000 円／大学生 800 円／小中高生 500 円
- 開館時間 午前 11 時から午後 6 時まで（入館は午後 5 時 30 分まで）
- 休館日 月曜日（但し 8/12、9/16、9/23、10/14、11/4 は開館）、  
8/13（火）、9/17（火）、9/24（火）、10/15（火）、11/5（火）
- 展示内容 陶芸家、藤本能道（1919-1992）の生誕 100 年を記念する展覧会。  
菊池コレクションが収蔵する陶磁器作品の他、特別出品の初期作品、  
新出の資料等を取り合わせて展示。（会期中、展示替えの予定）

展覧会に関するお問い合わせ ☎03-5733-5131／FAX：03-5733-5132  
（展覧会担当：高田）

## 展覧会のご紹介

2019 年は、戦後日本の陶芸界を牽引した作家のひとりである、藤本 能<sup>よしみち</sup>道 (1919－1992) の生誕 100 年にあたります。藤本は陸軍中将の祖父、大蔵省書記官の父をもつ家に生まれながら芸術の道を志し、やがて陶芸家として色絵磁器の技を極め、現代陶芸の世界に大きな足跡を残しました。当館の創立者、菊池智 (1923-2016) は同時代に作られる陶芸を精力的に見続け、作家との交流を楽しみましたが、なかでも最も集中して集めたのが、藤本の色絵磁器の作品でした。1992 年には作家の生前最後の個展が当館の立つ西久保ビル敷地内にて開催され、最晩年の一連の作品がここで発表されました。こうした縁により菊池コレクションには、藤本が色絵磁器に専心する 1970 年代から最晩年の 90 年代までの、質量ともに充実した作品群が収蔵されています。本展では、色絵磁器以前の初期作品から各時期の作品を並べ、創作の深まりと、藤本の色絵表現の到達点をご覧ください。

### ■ 展覧会のみどころ

#### ① 藤本能道の傑作「幻の食器」を 10 年ぶりに展示・公開



2. 「幻の食器」(1976 年)のテーブルセッティング(作家の生前最後の個展[1992 年]で作品が展示された当館敷地内の西洋館にて撮影)

本作「幻の食器」は、茨城県下で 1976 年に行われた植樹祭の折に、菊池家の宿泊施設に宿泊された昭和天皇、皇后両陛下の晚餐用にと、菊池智が藤本に制作を依頼した総数 230 ピースからなるディナーセットです。鳥や花の絵皿は一点ずつが異なる絵柄でデザインされるなど、藤本が精魂込めて制作しました。両陛下の晚餐にて一夜のみ使用された後は秘蔵され、公開の機会が限られてきたため、通称「幻の食器」と呼ばれています。この度は 10 年ぶりの展示、公開となります。



藤本は 1919 年、東京に生まれました。藤本家の家風からも、芸術を志すことには当初大きな反対があったといいますが、東京美術学校(現・東京藝術大学)に入学し和田三造らに工芸図案を学んだ後、色絵の大家であった先達の陶芸家、富本憲吉、加藤<sup>はじめ</sup>土師<sup>もろ</sup>の両師に師事し、陶芸の道に進みます。母校に陶芸専攻の講座が整備された 1962 年以降は同校にて教鞭をとり、やがて師の仕事を受継ぐように色絵に専心すると、1986 年には「色絵磁器」(磁器の表面に色絵具で絵や模様を描き、焼きつける製陶技術。色絵。)の重要無形文化財保持者に認定されました。

## ② 色絵以前の希少な初期作品、素描などを特別展示

今日、色絵磁器(色絵)の仕事で高い評価を受ける藤本ですが、色絵を制作の中心とするまでには、様々な試みの時代がありました。太平洋戦争後には鹿児島で窯業指導に従事、その後京都に移り、作陶家の団体「走泥社」や、多分野の作家が参加した「モダンアート協会」で前衛的な陶彫を発表するなど、1950-60 年代の活動は多岐にわたり、藤本の別の側面をみせます。本展では作家の工房があった縁の地、青梅の市立美術館に残る 1950 年代の希少な作品(No.3)や、未公開のまま作家宅に残された素描や水彩などを特別出品いただきます。改めて色絵磁器以前の仕事にも光をあて、戦後の時代の流行や文化的潮流の中で自身の作陶を模索した、若き陶芸家の姿を探ります。



3. 「もだえ(オブジェ)」1956  
青梅市立美術館蔵

## ③ 1970～90 年代の作品により色絵表現の深まりを紹介

菊池コレクションには、藤本が色絵磁器を集中的に手掛けるようになった 1970 年代半ばから最晩年まで、各時期の代表的作品が収蔵され、技術の進化と色絵表現の深まりを辿ることができます。工芸の制作においては技だけでなく、何より作り手の創意と表現の質を重視した富本憲吉に薫陶を受けた藤本は、従来の色絵技法を習得するだけでなく積極的に研究、改良しました。それまでなかった中間色の絵具や釉薬調合を試み、それらの色調と質感を極限まで追求した藤本の色絵は、陶磁器でありながら絵画のような空間の広がり複雑な色彩の重なりをみせるようになります。やがて 1983 年頃には絵具と釉薬を融合した独自の表現、「釉描<sup>ゆうびよう</sup>加彩<sup>かさい</sup>」を創出、色絵磁器の新たな可能性を示し、高い評価を得ています。

そうした熟達の技を用い、藤本は草花や鳥、虫などをモチーフに、生命の瑞々しい輝きを白磁のうえに描き続けました。とくに、作家の最晩年、亡くなる 2 か月前に行われた個展「陶火窯焰」展(1992 年 3 月開催)にて発表された最後の作品群(No.5 等)は、作家の心象風景を反映し、具象を越えた濃密な世界観を現出しています。



4. 「雪白釉色絵山帰来鶉図六角大箱」1982  
菊池寛実記念 智美術館蔵



5. 「霜白釉描色絵金彩焰と蛾図扁壺」1990  
菊池寛実記念 智美術館蔵

## ■作家略歴（藤本能道、1919-1992）

- 1919 大蔵省書記官、藤本有隣の次男として東京に生まれる。  
1922 父の死去により陸軍中將の祖父を父がわりに育つ。  
1941 東京美術学校工芸科图案部卒業。文部省工芸技術講習所第一部に入所。  
1942 講習所講師、加藤土師萌に陶芸を学び始める。  
1944 東京美術学校教授兼同講習所教授となった富本憲吉に師事、その後助手となる。  
1946 富本の教授辞任に従い講習所助手を辞任。京都の松風研究所に田村耕一と共に輸出用陶磁器のデザイナーとして入所。京都で富本から再び薫陶を受ける。  
1947 富本を中心に結成された新匠美術工芸会に参加。  
1950 鹿児島に移り、薩摩焼などの窯業指導にあたる。  
1956 京都市立芸術大学専任講師となる。日本陶磁協会賞受賞。  
1957 走泥社同人となる。翌年、モダンアート協会会員。  
1962 東京藝術大学助教授就任。  
1963 制作方向の転換から、走泥社、モダンアート協会を脱退。  
1966 「第 13 回日本伝統工芸展」〈赤絵花壺〉出品。日本工芸会正会員となる。  
1970 東京藝術大学教授となる。  
1973 東京都青梅市梅郷に築窯。この頃から安定した紫色を得るためのテストを重ねる（翌年 6 月に完成）。  
1974 「陶板陶器展—花と鳥」開催。最初の磁器だけの展覧会となる。「現代陶芸寛土里」のオープニングとして「藤本能道作陶展」。  
1976 茨城県植樹際の折の昭和天皇・皇后両陛下の晩餐用食器（「幻の食器」）制作。  
1981 日本陶磁協会金賞受賞。紺綬褒賞受賞。  
1985 『藤本能道作品集』（講談社）刊行。  
東京藝術大学学長に任命される（～90 年）。  
1986 重要無形文化財「色絵磁器」保持者の認定を受ける。  
1988 この頃、霜白釉、梅白釉を用い始める。  
1992 3 月、陶火窯焙—藤本能道新作展開催（東京・菊池ゲストハウス）。5 月 16 日、呼吸不全のため逝去。

## ■関連行事

### □ナイトミュージアムコンサート「ハーブが奏でる花鳥風月」

閉館後の展示室を会場に、作品と異なる芸術分野の表現をお楽しみいただくナイトミュージアム。

この度はグランド・ハーブ奏者の景山氏による、ミュージアムコンサートを開催します。

10 月 12 日（土） 19:00 開演（18:45 開場予定）、B1 階展示室

出演：景山梨乃氏（グランド・ハーブ、東京交響楽団首席奏者）

定員 60 名（事前予約制） 会費 3,000 円（観覧料含む。当日観覧券持参の方 2,000 円）

### □特別鑑賞会「藤本能道の色絵を比較する」

学芸員の解説を聴きながら、藤本作品を自然光の元でじっくりとご覧いただく特別鑑賞会です。

① 9 月 21 日 / ② 10 月 26 日 各土曜日 14:00

予約不要、参加無料（要当日観覧券）

### □作家によるアーティスト・トーク「藤本能道の仕事について」

藤本能道の助手を努め、制作や釉薬、絵具研究などを助けた陶芸家の方々をお招きし、展示室にて作品を見ながらお話いただきます。

11 月 9 日（土）14:00 B1 階展示室

陶芸作家：末岡信彦氏、廣瀬義之氏

予約不要、聴講無料（要当日観覧券）

### □学芸員によるギャラリー・トーク

8 月 17 日 / 9 月 14 日、28 日 / 10 月 5 日 / 11 月 2 日、23 日 各土曜日 14:00

予約不要、聴講無料（要当日観覧券）

[※関連行事の詳細は変更となる場合がございます。最新情報は当館 HP をご覧ください。](#)

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を 1 点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

**掲載に関するお問い合わせ先** 菊池寛実記念 智美術館(担当:高田、足立)

TEL.03(5733)5131 FAX.03(5733)5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

## 掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX : 03-5733-5132

### ●貴社基本情報

|         |        |
|---------|--------|
| 会社名:    |        |
| 担当部署:   | 担当者名:  |
| 住所:     |        |
| 電話      | ファックス: |
| E-MAIL: |        |

### ●媒体情報

|           |      |       |
|-----------|------|-------|
| 新聞<br>雑誌  | 媒体名: |       |
|           | 発行日: | 発売日:  |
| TV<br>ラジオ | 媒体名: |       |
|           | 放送日: | 放送時間: |
| ネット       | URL: |       |

### ●画像貸出リスト ※キャプションには作者名・作品名・制作年・所蔵・撮影者を必ず入れてください。

| 希望に☑                     | 作品キャプション                                                 |
|--------------------------|----------------------------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> | 1)「梅白釉釉描色絵金彩花と蝶図六角小筥」1991 年 菊池寛実記念 智美術館蔵 (撮影:尾見重治、大塚敏幸)  |
| <input type="checkbox"/> | 2)「幻の食器」(1976 年作)のテーブルセッティング 菊池寛実記念智美術館蔵 (撮影: 尾見重治、大塚敏幸) |
| <input type="checkbox"/> | 3)「もだえ(オブジェ)」1956 年 青梅市立美術館蔵                             |
| <input type="checkbox"/> | 4)「雪白釉色絵山帰来鶏図六角大筥」1982 年 菊池寛実記念 智美術館蔵 (撮影:亀井友吉)          |
| <input type="checkbox"/> | 5)「霜白釉釉描色絵金彩焰と蛾図扁壺」1990 年 菊池寛実記念 智美術館蔵 (撮影:田中良)          |

### ●読者プレゼント用チケット希望: ☐5 組 10 名様 ☐10 組 20 名様

## プレスプレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。  
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー 2019 年 8 月 2 日(金) 14:00 ～

14:00 ～14:45 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。  
展覧会、会場内をご撮影いただけます。

14:45 ～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場：菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1

- ・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分
- ・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
- ・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
- ・銀座線・虎ノ門駅：出口 3 より徒歩 10 分

◆ .....  
ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAX にて

ご返信下さい。**返信先 FAX 03-5733-5132**

|         |      |
|---------|------|
| 会社名：    |      |
| 担当部署、氏名 |      |
|         |      |
| 住所：     |      |
| 電話：     | FAX： |
| Email   |      |